



CERN内は数多くの施設が立ち並び、科学展示場も設置され、視察や見学の受け入れも積極的に行っている。宇宙的な空間の中に、画像や実験装置、解説パネルなどが展示され、訪れる人の興味・関心を引き付ける。実験装置の稼働を停止する期間は、実験棟内へ入って見学することもできる。

CERN内のレストランは、おしゃれな雰囲気と広々とした空間が、研究者の気持ちを和ませる憩いの場。研究者が食事をとりながら、研究談義に花を咲かせることもしばしば。メニューも豊富で、肉類や野菜類の分類もされているため、諸外国から集まる研究者の食事情にも合わせやすくなっている。



※江刺区出身の佐々木修教授(KEK)は、CERNに駐在し、ことしで8年目。測定装置の設置から機器のメンテナンスや実験などに携わる。地元へのILC誘致に期待を寄せ「自分の経験と技術を生かして挑戦したい」と意欲を見せる。「地元建設が決定した場合、できることは喜んでお手伝いしたい」と語っていた。

齋藤武彦教授(ドイツ・マインツ大学)は、科学を通じて子どもたちに夢を与え、東北へのILC建設実現に情熱を傾ける熱心な支援者。昨年5月には、県内の中学校や高校で特別授業を実施した。専門的な見地から説明を行い、一般の人たちのILCに対する疑問や不安を解消し、理解を深めてもらいたいと語る。



CERNで働く研究者やその家族の多くは、近隣のフェルネーポルテル市(フランス)に居住。市役所周辺の道路では毎週末に朝市が開かれ、生鮮食品をはじめ、衣類や生活雑貨などを販売するテントが多く立ち並び、研究者を迎え入れることで、地域経済が活性化することもひとつのメリットとして捉えられている。

※KEK…大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構の略称

ILCの東北誘致を

実現させたい

東北復興の象徴として位置づけられているインターナショナルリニアコライダー(以下、ILC)。市は、県や関係団体と密接に連携して、北上高地への誘致活動に取り組んでいます。このたび、活動の一環として、市長自ら4月10日から15日までの日程でスイスの欧州合同原子核研究機構セルン(以下、CERN)を訪問。ILC東北誘致への熱い思いを届けてきました。今回、その様子を市民の皆さんにお伝えします。

■問い合わせ〓本庁政策企画課ILC推進室(内線415)

CERNの研究施設付近の風景。のどかな景色が広がり、静かな生活環境がうかがえる